

---

## 生まれ変わっても...

央 8 4

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

生まれ変わっても…

### 【Nコード】

N4888Z

### 【作者名】

央84

### 【あらすじ】

身分違いの恋でした。生まれ変わってもまた…。

そんな姫様と騎士の夢を見る二人。もしかしてこれは…！？

## 西野鷲

「貴方は残酷ね。」

「私に愛ばかりくれたくせに。」

「綺麗な青い髪 of 王女が言う。」

「いや、正しくは王女だった人だ。」

「願うことなら、俺は王女様を殺めたくはなかったのに。」

「これもすべてあいつが…。」

「呪ってやる、殺してやる、アイツを」

「姫様…」

「生まれ変わってもまた…。」

「嫌な夢を見た。」

「気付けば時計の針は遅刻の時間を指している。」

「あ—————!!!!!!」

「朝からまた嫌な夢を見たとおもえば今度は遅刻かよ。」

「なんで起こしてくれなかったんだよ!!!」

「母さんに八つ当たりする。」

「だって貴方不良でしょ？朝から行くと思わなかったもの…」  
「なんて失礼だ。」

「ほら、ちゃんと食べないとまた成長しないわよ」

「あ？」

「また男の子に間違われるわよ」

「うっせー!!!!」

改めまして、

私は西野<sup>にしの</sup>鷹<sup>たか</sup>。

この男っぽい名前と、男っぽい口調で学校では“女の皮を被った男”とか言われてます。

さっきの夢でも男だったしね…。

もう気にしてないよ…、気にしてない…。

「えへへー、鷹ちゃんおはよー」

「みい」

「今日也大遅刻だねー、へへー」

こいつは、親友つていえる、可愛い子ちゃん“芦原<sup>あしはら</sup>美衣<sup>みい</sup>”。  
通称みい。

「あのねー、今日はねープリン作ったんだよー」

「えらいえらい」

「一緒に食べようねーへへー」

みいの作る手料理は本当においしい。

マジでうますぎる。

「芦原さん」

「あつ、ごめんねー」

「バカみい」

不意にみいを呼ぶ声。

その声が本当に透き通ってて、聞いたことのある声で。

私が驚いていると、相手も驚いていた。

「邪魔して、ごめん」

「いいよ、へへー」

あ、渡くんも食べてかない？プリン。」

「遠慮しとくよ」

渡、わたりか。

まるであの夢の姫様みたいだった。

**西野鷲（後書き）**

初めましての方は初めまして。

こんにちは・こんばんわ、央84です。

受験受験とか自分で言ってる新作です。

ストックも出来たので、消さないです（多分）。

姫と騎士の

## 渡 璃亜

今日は本当にツイてない日だった。

そう例える事ができる1日だと自負できる。

朝から変な夢でうなされて起き。

宿題を忘れ。

終いには、僕の席に女の子が座ってる。

いや同性愛者とかじゃないんだけど、僕は女の子が怖い。

しかも僕の席に座ってる女の子―（たしか芦原さん）の話しかけてる相手は、

不良で有名な西野鷹。

僕、死にそう。

「芦原さん」

声が微かに震えた。

「あつ、ごめんねー」

「バカみい」

その声は夢で聞いたことのある、力強い声。

僕が驚いて顔を上げたら、相手も驚いていた。

「邪魔して、ごめん」

僕はなんとか声を振り絞って言った。

「いいよ、へへー」

あ、渡くんも食べてかない？プリン。」

「遠慮しとくよ」

おいしそうなプリンを横目に、僕は友達のもとに戻った。  
なんだか、あの夢の騎士に似ているな、なんて思った。



## 渡 璃亜 2

「はじめまして騎士の御二方。

私は、リリア。リリア＝ファニール。

リリアって呼んでください。」

「はじめまして、リリア様。

俺はドウ＝ラッセと申します」

「はじめまして。

俺は、ホーク＝トロアです。」

頭をあげる二人に、私はときめいた。

白騎士・ドウ＝ラッセと黒騎士・ホーク＝トロア。

二人とも大層な美男子だった。

「っ…っ…」

「何やってんだよ、璃亜<sup>りあ</sup>！」

「あ、え、ごめん…風間…」

「全く…、ほら保健室行くぞ！」

彫刻刀で、思わず手を切ってしまった。

また変な夢だ。寝てないのに。

「ごめんな、いつも…」

「いや、別にいいし…！」

なんだこのツンデレ。

風間<sup>かざま</sup> 刹那<sup>せつな</sup>。

イケメンすぎて羨ましい、幼なじみだ。

「よかったな、怪我浅くて」

「しみる…」

「仕方ないだろ、消毒液つけてるんだから」

「わかってる…ついてっ…！」

「我慢しろよ」

先生の代わりに手当てをする風間。

すっごい男らしくグリグリやってきて痛いんですけど…!!?

「うるせー！寝れないんだよ！」

「え、人？」

「あ…、西野さん…」

西野さんは何故か硬直してた。

## 西野鷹 2

リリアは、姫。

そして俺は、ホーク。

また変な夢だな。

と、堂々と保健室でサボって寝てたのに。

「しみる…」

渡の声…と。

「仕方ないだろ、消毒液つけてるんだから」

「わかってる…ついてっ…！」

「我慢しろよ」

「うるせー！寝れないんだよ！」

思わず出てしまった。

「え、人？」

「あ…、西野さん…」

硬直してしまった。

あの声は反則だろ。

いかがわしすぎる…、と思ってたのに。

「西野？璃亜の知り合い？」

「クラスメイトだよ」

渡の手が赤くなっている。

「…っお前！」

慌てて、優男が握っていた消毒液を回収した。

「傷口になにたくさん消毒液かけてるんだよ！」  
ガーゼを畳んで、傷口に巻く。

「ったく…。はい、終わり」

「ありがとう、行こう風間。」

渡の笑顔がとても可愛かった。

そして、何故かこつちを向いた優男の視線が刺されたように痛かった。

## 西野鷹 2（後書き）

怒涛の三連投！！央84です。

なんでこんなにB L っぽくなったのか分かりません。警告加えませんでした。

評価や感想などお待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4888z/>

---

生まれ変わっても...

2011年12月20日20時55分発行